

ミツカン水の文化センター・WP

タイトル 「庄内川水系における
近自然工法（多自然型工法）と住民の関わり方」
キーワード 多自然型工法と里川の可能性
レポーター 吉田 稔

1. 本守真人プロフィール（現・都市整備協会/常務理事）

今年4月退官するまで、愛知県の河川局土木技術の中心人物として関わってきた。東海地区では、もっとも知られた方で全国的に見ても多自然型工法の一番の牽引者。（河川協会・紀陸専務弁）

近自然工法との関わりは、10数年前に提唱者のスイス在住山脇正俊氏との出会いであった。その後、ドイツ、スイスの視察を行ない、コストが掛からずし自然に近い河川方法に取り組んで行った。これを進めるために、その当時県会議員に対しても何度も近自然河川工法のレクチャーを行った。

2. 近自然型から多自然型へ（本守氏談）

この考えが日本に紹介されたときに、「近」という言葉に抵抗があった。「近」は「禁」をイメージするとして、自然を多く取り込むことをイメージして「多自然」とした。しかし、これも必ずしも適切な表現ではない。

いずれにしても、高度成長と治水対策が優先した河川行政が結果的に河川・自然環境破壊に等しい状況を招いた。

愛知県では、本守氏が先頭に立って河川改修にあたって、この工法を取り上げてきた。

従って、この考えの中には「人間」との係わり合いは重視していない、特に近自然河川工法は、河川を自然に戻す発想であり「人間」が関わらない事を考えているようにも思える。そんな中で、本守氏の考えとしては、河川への愛着は深くかつ、行政としてことを推進する為には、是非とも住民との係わり合いが欠かせない事を実感している。

また、ヨーロッパと日本の自然に対する考え方は、明らかに異なる。自然の対峙するヨーロッパと自然と共にある日本、しかし、取組みにおいては、ヨーロッパのほうが徹底しており、日本のほうがあいまいである。

3. 庄内川水系と多自然型工法

1) 庄内川水系

庄内川は、岐阜県恵那郡山岡町の夕立山（標高 727m）を源とし、陶器の都市「多治見・瀬戸」市、衛星都市「春日井」市、人口 200 万の「名古屋」市を流れ、名古屋市港区から伊勢湾に注ぐ典型的な都市河川である。

庄内川の名称は、現在でも岐阜県側では「土岐川」と呼ばれ、愛知県では庄内川と呼ばれています。しかし、その中間部分定光寺を中心として左右数キロでは「玉野川」とも呼ばれています。

歴史的にも、江戸時代以前は主な流域地名で「土岐川、玉野川、勝川、庄野川」等と呼ばれていたが、尾張藩初代城主「徳川義直」が尾張北部流域の各庄を流れる川ということで「庄内川」と命名された。正式には、明治時代に入ってから愛知県内について「庄内川」に統一された。

※ 庄内川水系のデータ

幹川流路延長	96 k m
流域面積	1010 k m
主な支川数	17 河川
流域人口	2 4 0 万人

庄内川は一級河川であり、国の管理であるが一部住人の要望もあって、地域住民が親しむためのワンドを大きくした自然に近いビオトープを造成した。が 4 年前の東海豪雨によって流出した。

1) 庄内川水系・近自然河川工法の事例

① 生地川（八田川支流）

河道貯留をかねた近自然河川公園の施工⇒当初地元外の NPO 団体が維持、清掃等の活動を行ったが、継続難しい状況。

② 蛇ヶ洞川（水野川支流）

オオサンショウウオの生息河川であり、その保護を目指して護岸修理を行う。殖生ブロック、巢孔ブロック構造を施工

⇒オオサンショウウオ、ゲンジボタルの保全活動（町内会）・NPO「名古屋市水辺研究会」が支援し、比較的活発。

③ 香流川（矢田川支流）

愛知県として最初に手がけた河川あり、遊歩道、緑地河川岸などの整備がされている。しかし、香流川に関わる市民活動はないが水質は過去 10 年改善されている。庄内川水系ではもっとも都市化が進んだ地域であり、興味深い河川である。

2) 土岐川・庄内川流域ネットワーク

多自然型の取り組みは、最初に紹介した「ビオトープ」造成程度しか見られず、流域ネットワーク作りは、国土交通省「庄内川河川事務所」が中心となって河川流

域住民の参加意識を高め、川との関わりを深める事を意図している。

その為の運営部署として「流域連携課」を設置している。

平成15年秋からネットワーク機関誌「土岐川庄内川こんにちは」を発刊し、活動情報の共有化を狙う。流域の主な活動

① 庄内川をきれいにする会（守山区）

- ・ 昭和49年発足・会員数 250名
- ・ 食べられない魚釣り大会と魚類調査実施（毎年）

② 志段味の自然と歴史に親しむ会（守山区）

- ・ 昭和59年発足・会員数 100名
- ・ 庄内川流域、湧き水、湿地をフィールドし史料的研究、観察会の月例会実施。

③ 瀬戸サンショウウオを愛する会（瀬戸市）

- ・ 平成11年発足・会員数 80名
- ・ オオサンショウウオの保護活動、蛇ヶ洞川の動植物観察会

④ みどりの会（多治見市）

- ・ 1984年発足・会員数 30名
- ・ 土岐川周辺の自然観察会

⑤ 土岐川観察館（多治見市）

- ・ 2002年多治見市、国土交通省、市民団体が設立。
- ・ 自然教室、土岐川河川情報提供、「子どもガサガサ探検隊」実施

これらの活動が住民参加あるいは、住民が川に親しむために何らかの手助けになっているか意見収集する。

その結果、このような活動が河川に対して親しみを覚え人々が集まってくる要因になりうるか検証してみるが、同時に名古屋市内の典型的都市型河川であり、本守氏が県事業として最初に「多自然型川づくり」を手がけた川である「香流川」の歴史と現在を見て、歩いて、調べながら「里川」の可能性を手繰ってみたい。

